

令和3年8月1日発行 第34巻第8号 通巻398号 毎月1回1日発行 平成元年10月11日第3種郵便物認可

清掃スタッフのための技術情報マガジン No.398

ビルクリーニング



特集

女性ビルメン社長の 経営革新ストーリー

コラム

メッセージはトイレの中に
②原石、テレビレビュー？

資機材インフォメーション

KARCHERのマシン哲学
最終回 バッテリーユニバース

情報

第17回ビルクリーニング
アイデアグッズ大賞
あと1か月！締め切り迫る

8

2021
August



女性総合職を積極的に採用し、ビルの快適環境の創出と労務改善に取り組む

株式会社メンテックカンザイ 代表取締役

大滝郁子

エピソード #1

大学院を卒業して働いたビルメン会社で女性総合職の第1号に

当社は祖父の大滝力が1967（昭和42）年に静岡県で創業（当時、静岡管財有限会社）した会社です。1993（平成5）年から昨年まで、私の父（大滝浩右、現会長）が2代目として経営を担ってきました。

私は、大学院卒業後、修行というわけではないのですが、都内のビルメン会社に就職し、4年間お世話になりました。社会人としての基本、ビルメン業務の基本を教えていただきました。その会社は女性の総合職を採用していなかったので、私が第1号でした。

第1号ということで、周りの人たちも私の扱い方に苦労されたのではないかと思います。お客様も「女性ですか？」という反応で、当時はそれくらい珍しいことでした。

エピソード #2

女性総合職を積極的に採用するものの女性特有の問題で辞める人も

2000（平成12）年に当社に入社し、しばらく総合職として働いていました。当社は女性の採用に積極的で、女性総合職も4、5人いました。社長になったばかりの父が大卒を積極的に採用したんです。ちょうど就職難で、かなり優秀な人も採用できた時代でした。

そのときから当社では、男女の差別をなくし、女性でも特別扱いせず男性と同じことをやりますし、人事査定なども差がないようにしています。なので、一般職の女性たちは居心地がいいのか、長く勤めてくださる方が多いです。

ただ、女性の総合職となると、定着率が悪く悩みの種の1つです。私自身、総合職を経験し、業界特有の問題もあると感じています。一つは、女性が多い清掃現場を女性が管理するのは、人間関係という大きな壁ができ非常に難しいと思います。もう一つは、女性は結婚、出産によって人生のステージががらりと変わり、従来どおりに仕事を続けられないということもあります。

当社には育休制度があり、何人かの従業員が利用していますが、家庭と仕事の両立が難しいようで、結局退職するケースも発生しています。例えば、お子さんが熱を出してどうしても帰らないといけない。それが続くと責任を感じ、2人目ができたタイミングで会社を辞めるという方もいました。これは、多くの会社で課題となっていることではないでしょうか。

エピソード #3

業界イメージを変え、他社との差別化に取り組み、お客様のお困りごとに応える

この業界は裏方的なお仕事なので、若い子たちが積極的に選ぶ業種ではありません。ドラマなどでは、清掃や警備は、人生で壁にぶちあたって、やむを得ず就く仕事として描かれることも多く、そういうイメージを持たれ

施設の快適環境を考えながらメンテナンスをしていき

お客様のサステイナブルな業務活動に寄り添いたい

ているのも事実です。

実際には、奥が深く、おもしろい業界だということを知ってもらいたいのですが、伝えるのは難しいし、これは業界全体で取り組むべき問題でもあります。

ビルメンテナンスは、同業他社が多いので、差別化をどう図るのかが大事だと思っています。現会長の父・大滝浩右もそこを考え、女性の雇用創出や独自のサービス「ノンスリップマスター」という床の滑り止め工法、新型インフルエンザが流行した時代から除菌や抗菌のサービスなど、数多くのサービスを取りそろえてきました。当社は元々、独自サービスの提供だけでなく、お客様への積極的な提案を通じて、お客様が普段困っていることやニーズを的確に捉えて解決に導くことを当社の強みだと考えています。社員一人ひとりが解決するまで決して諦めることはありません。



オンリーワンサービス

独自技術とサービス

床やタイルなどの滑り止め施工を手がけ、25年以上の歴史を誇る同社。建物の利用者の事故防止や労働災害の防止、また、高齢者などに配慮したバリアフリー対応など、安全対策の一環として滑り止め施工の必要性を考えている。特徴としては、美観の変化を最小限に止め、防滑の効果を高める画期的な工法を編み出した。以来、ビルや階段、浴室、プールサイドなど、4,000件を超える施工実績がある。

メンテク

玄関、風呂場、階段など
滑りやすいところに！

ノンスリップマスター

新しい滑り防止技術。
転ばぬ先のワザ。

美観を生かして
滑りにくい床石、実現します。

静岡のガガ

エピソード#4

コロナ禍で社長に就任、 責任感と誇りをもって業務にあたった社員に感謝

会長も80歳になり、昨年8月に経営を引き継ぎました。

コロナ禍のなかで就任し、多くの従業員が退職するのではないかとも思いましたが、みんな頑張って通常業務を続けてくれました。お客様でコロナ患者が出た場合、消毒の依頼も受けることもありますし、コロナ患者受け入れ病院の業務もやっていますが、全員逃げ出さず、従業員一人ひとりが仕事に対する責任感と誇りを持って業務にあたってくれました。命に関わる問題でもあり、不安だったと思いますが、非常に立派で従業員を誇らしく感じました。本当に感謝しかありません。

スタッフたちの仕事に対する責任感を、改めて再認識することができました。

エピソード#5

われわれの存在があって人びとの生活がある、 ビルの公衆衛生を守る大切な役割

われわれの仕事は建物の公衆衛生を守ることです。それが、日本では水や空気のように当たり前のことであり、あまり着目されていませんでした。建物にはたくさんの人がいて、われわれのような存在があって清潔な生活が守られているわけです。そのことに気づいてもらい、業界にもっと光があたると、労働環境が良くなると思うのですが、まだまだ達成できていないと思います。

そもそも当社は、静岡県と首都圏に拠点を置きながら、オフィスビルをはじめ、工場や研究所、病院など、環境に対して関心が高い現場を数多く受注しているため、環境負荷という面で、どうやったらお客様のサステイナブルな業務活動にご協力できるのか、そこを一生懸命考えています。



2019年から外国人技能実習生の受け入れを開始。同業の大成株式会社が運営する「T↔Vコンサル」によるサポートで、2019年に2名、2021年には6名のベトナム人技能実習生を受け入れ、現在、東京支店の現場で活躍している

エピソード#6

労働人口がますます減るなかで、清掃ロボットの導入や技能実習生の受け入れを推進

ビルは、毎日のように清掃をしても次の日には汚れてしまします。現場は高齢者が多く、新しいやり方や新資機材を積極的に導入するなど、どうすれば従業員が苦労せずに日々の業務ができるのか、身体の負担が軽減され、短時間できれいに作業できるのかを常に意識しています。

これから日本の人口が減っていくなか、新しいことへのチャレンジは欠かすことができません。IT化やロボットの導入などを進め、今まで5人でやっていた作業が2～3人にできるようになれば、お客様の委託費を見直すこともできますし、何より、従業員たちの給与に還元することもできます。

労働集約型というこの業界の特性上、人をどうやって確保するかは、最大の課題であり悩みです。IT化やロボット化、新資機材の導入は、課題や悩みの解消につながるものなので、当社でも早い段階から清掃ロボットを導入しています。

また、外国人技能実習生を受け入れたのも、そうした課題からです。当社では、ベトナムから8名の実習生を受け入れています。みんな本当に若くて、かわいくて、それでいて一生懸命に作業をしてくれます。高い向上心

を目の当たりにすると、私たちも励みなりますし、現場にも良い相乗効果が生まれます。

当社としては、この技能実習制度をうまく活用しながら、社会貢献にもつなげていきたいと考えています。

エピソード#7

メンテナンスに関心をもつオーナーのビルはテナント入居率も高い快適なビル

新型コロナの関係で、リモートワークが浸透し、オフィスのあり方が問われるようになってきました。その影響は数年後、遅れて私たちの業界にやってきます。そのときにどう乗り越えていくかは、今後の大きな課題だと考えています。

長年、われわれは数多くの建物を管理させていただいております。建物のメンテナンスに高い関心を持つお客様の建物は、40年、50年経っても快適な状態に維持されています。良い環境の建物にはテナントさんもすぐに入居されて空室率も低いなど、メンテナンスは建物の収益にも大きく影響する重要な仕事なのだと改めて感じます。

お客様の建物を1年でも長く、そして、そこで仕事や生活をしている方々が安全で安心できる環境を創っていくことが当社の使命です。コロナ禍でも快適に過ごせる環境を構築し、お客様のどんな悩み事も解決する、そんな会社でありたいと考えています。

会社紹介

株式会社メンテックカンザイ

静岡県静岡市駿河区南町18-1
サウスピット静岡4階



1967（昭和42）年6月に、静岡管財として創業。創業者の大滝力氏は、1974（昭和49）年に静岡県ビルメンテナンス協会長に就任し、翌年には全国ビルメンテナンス協会の理事を務めた。創業の地である静岡市を基盤に、浜松、三島へと支店を増やし、静岡県内全域をカバーする体制を整え、1998（平成10）年には東京支店を開設。昨年の8月には大滝郁子氏が代表取締役社長に就任。経営理念は、「すべての生き物は、必要があって生きています。私たちは進んで地球をきれいにし、「青い地球」を守っていきます」。